

〈令和6年度 総会〉

「令和5年度論文賞」と「功績賞」報告

環境システム計測制御学会 選考委員会委員長

田子靖章

(EICA 幹事長/メタウォーター(株))

当学会では、令和6年4月11日(木)に選考委員会を開催し、「令和5年度論文賞」受賞論文および、「功績賞」の選考を行いました。

令和5年度論文賞につきましては、学会誌「EICA」第27巻(令和5年度発行)に投稿された7編の査読論文およびノートを対象に、①環境システム計測制御にふさわしい範疇のものであること、②論文として完成度が高いものであること、③環境システム計測制御分野で学術、技術の進歩発展に顕著な功績があったものであることを基準とし、選考委員会で審議しました。

審査の結果、次の2編の論文が選出され、令和6年度総会において表彰され、副賞と記念品が贈られました。

『ストーカ炉からの一般廃棄物焼却残渣における未規制元素に関する調査』

京都大学大学院 工学研究科 都市環境工学専攻 毛 嘉鈺 様 ほか4名様

同論文は、一般廃棄物焼却残渣において規制対象となりうる元素を対象に、含有量と溶出挙動の分析を行った研究です。焼却廃棄物の汚染物質管理に加え、飛灰再利用に関わる重要な指摘をされており、研究課題の社会的な実用性が高く、実データとしての価値や完成度の高さから選考されました。

『セルフクリーニング pH 電極の実現場における評価』

(株)堀場アドバンステクノ 高味拓永 様 ほか4名様

同論文は、光触媒効果を用いたセルフクリーニング pH 電極の実証研究です。近年の社会問題である人員不足、メンテナンスコストとなる洗浄・校正・現場移動、現場作業者の安全リスクの問題などの解決を目的として光触媒によって電極の汚れを自己洗浄して長期間の防汚効果を実証評価したものです。メンテナンス頻度を大きく削減できる点について社会問題への貢献度が高く、かつ論文の完成度の高さを評価されました。

令和5年度論文の全体講評：

論文賞選考対象論文は上下水道や廃棄物の計測制御や AI/IoT など、環境システムの計測、制御というテーマにふさわしいものであり、いずれの論文も当該学術、技術の進歩発展に顕著な功績があり、その研究内容が当学会の活動主旨に相応しいものであるという理由から選考されました。

今後も、「環境システムの計測、制御」領域の更なる発展に向かって、特に若手技術者からの論文投稿を期待し、当学会活動の活性化にもつながる様に取り組んでいきたいと思えます。

功績賞について

功績賞は本会の運営に顕著な功績があった者に授与するもので、会長、副会長他を4年以上の経験者の中から選考委員会が受賞者を選定しています。令和5年度の功績賞は、長年当学会の委員を務められ、当学会の発展に貢献いただいた以下の2名を選出しました。

新井喜明 様

新井様は元(株)明電舎で当学会の副幹事長および総務委員、企画委員などを20年以上にわたってご担当され、当学会の企画運営に多大な貢献がありました。

後藤雅史 様

後藤様は元マレーシア工科大学の教授で、当学会の編集副委員長および編集委員を計24年間にわたってご担当され、学会誌の査読や編集に多大な功績がありました。

2名の功績賞受賞者は、「名誉会員」として推挙し、総会で承認が得られ、表彰状と記念品が贈呈されたことをご報告申し上げます。